*Xylolestes laevior* (Reitter, 1874)

## いわゆるホソカタムシ類の所属変更と新しい種リスト

青木淳一

〒106-0031 東京都港区西麻布 3-8-12

### Systematic Position of “Colydiid Beetles” and A New List of the Japanese Species

Jun-ichi AOKI

以前、「ホソカタムシ科 Colydiidae」としてまとめられていた甲虫が二つの群、すなわちムキヒゲホソカタムシ科 Bothrideridae とコブゴミムシダマシ科 Zopheridae に分割され、それぞれ別々の上科に所属することになったことは、筆者の著書「ホソカタムシの誘惑」(初版, 2009b および第2版, 2013) や「日本産ホソカタムシ類図説」(2012b) に述べてあるが、最近の論文 (Robertson *et al.*, 2015) によってヒラタムシ上科の大幅な改定が行われた。この論文は昆虫学の分野では極めて稀なことであるが、11名もの多数の著者による共同執筆で、詳しいDNA分析の結果に基づいてヒラタムシ上科 Cucujoidea を二分し、かなりの科をテントウムシ上科 Coccinelloidea に移している。そのため、従来はヒラタムシ上科に所属していたムキヒゲホソカタムシ科 Bothrideridae はテントウムシ上科に移されている。さらに、ムキヒゲホソカタムシ科の中に入っていたツツホソカタムシ亜科 Teredinae がツツホソカタムシ科 Teredidae に格上げされた。

筆者としては今のところこの大規模な研究結果を批判する材料もなく、とりあえずこの説に従っておく。その結果、日本産のいわゆるホソカタムシの分類体系も書き直す必要がでてきた。加えて、青木 (2009b) の後に発見された新種 (16)、新亜種 (1)、日本新記録種 (6)、所属する属が変更になった種 (10) などを含め、新しい分類体系に基づいた種名リストをここに示す。また、その後の調査

によって多くの方々から分布情報が報告され (亀澤, 2012a, 2012b; 生川, 2011; 生川・細川, 2014; 西田, 2017; 伊藤, 2017 など) 新分布域が判明した種も多くあるので、大まかな分布域を整理してリスト中に略号 (後述) で記入した。

また、ホソカタムシ類を含む日本産甲虫類球角群の同定に最も多く参考にされている「原色日本甲虫図鑑 (III)」(黒澤ほか, 1985) のほか、「ホソカタムシの誘惑」(青木, 2009b)、同書 (第二版) (青木, 2013) のそれぞれの出版よりあとに日本のホソカタムシ類に新たに追加された種を A, B, C 群に区別してリスト中に示し、さらに B・C 群のものはまとめて図を掲げた。これによって、上記の3書をすべて所有していない人にも、現在の時点で日本から報告されているホソカタムシ類を一括して知ることができるように配慮した。

あらためて、カクホソカタムシ科 Cerylonidae を除いた日本産のホソカタムシ類 (ムキヒゲホソカタムシ科+ツツホソカタムシ科+コブゴミムシダマシ科) を整理してみると、その種数は、北隆館の「原色昆虫大図鑑 II (甲虫篇)」(中根ほか, 1963) で 20 種、保育社の「原色日本甲虫図鑑 (III)」(黒澤ほか, 1985) で 30 種、「ホソカタムシの誘惑」(青木, 2009b) で 47 種、「日本産ホソカタムシ類図説」(青木, 2012b) で 65 種 (コブゴミムシダマシ亜科の4種を含む)、「ホソカタムシの誘惑 (第二版)」(青木, 2013b) で 61 種、本報告では以下のリストに示すように、3科、4亜科、28属、73種となっている。

2009年の時点で日本産の種はほぼ記載し終わったと思えたが、それから現在までに16種も増加している。今後も、まだ数種の新発見があるかもしれない。

このような種数の増加は、筆者による調査（主に離島部分）のほか、以下の方々による熱心な採集と標本の提供によるところが大きく、ここに厚く御礼申し上げる（五十音順、敬称略）：秋田勝己、安藤清志、伊藤建夫、今坂正一、大桃定洋、岡田圭司、蟹江昇、金子道夫、城戸克弥、久保田義則、桑原幸夫、斎藤琢巳、斎藤昌弘、酒井雅博、佐々木茂美、杉本可能、鈴木互、高橋敬一、田中勇、堤内雄二、露木繁雄、豊島健太郎、中川優、生川展行、西真弘、野津裕、平野幸彦、弘世貴久、細川浩司、益本仁雄、三宅武、吉田正隆。

**日本産ホソカタムシ類（ムキヒゲホソカタムシ科、ツツホソカタムシ科、コブゴミムシダマシ科）  
種名リスト**

種名の頭にAを付したもの：「原色日本甲虫図鑑（III）」（黒澤ほか、1985）よりのちに、新種または日本新記録種として追加されたもの

種名の頭にBを付したもの：「ホソカタムシの誘惑」（青木、2009b）よりのちに、新種または日本新記録種として追加されたもの

種名の頭にCを付したもの：「ホソカタムシの誘惑（第二版）」（青木、2013b）よりのちに、新種または日本新記録種として追加されたもの

属名のみ太字にしたもの：所属する属が変わったものの分布域の略号

北：北海道	四：四国	隅：大隅諸島
本：本州	九：九州	ト：トカラ列島
伊：伊豆諸島	対：対馬	奄：奄美諸島
小：小笠原諸島	五：五島列島	沖：沖縄諸島
隠：隠岐	甌：甌列島	先：先島諸島

**テントウムシ上科 COCCINELLOIDEA  
Robertson et al., 2015**

（ヒラタムシ上科 Cucujoidea に入れられていたものが、全てこの上科に移された）

**ムキヒゲホソカタムシ科 BOTHRIDERIDAE  
Latreille, 1802**

**ムキヒゲホソカタムシ亜科 Bothriderinae  
Erichson, 1845**

サビマダラオオホソカタムシ *Dastarcus longulus* Sharp, 1885 本・四・九・対・隅

A クロサワオオホソカタムシ *Dastarcus kurosawai* Sasaji, 1985 隅・ト・奄・沖・先

オガサワラスジホソカタムシ *Ascetoderes popei* Nakane, 1978 小

B コウヤスジホソカタムシ *Ascetoderes koyasanus* Aoki, 2010 本

基準産地：和歌山県高野山山頂付近（田中勇

採集）。触角も脚も太く、全体につやがあるのが特徴。今のところ1頭だけが採集されている珍種（図1）。

ムネクボスジホソカタムシ *Ascetoderes takeii* (Nakane, 1967) 本

フカミゾホソカタムシ *Machlotes costatus* (Sharp, 1885) 北・本・九・対・小・ト・先

セスジツツホソカタムシ *Carabothrus hiranoi* (Aoki, 2008) 九・対・隅・奄・沖・先

当初、*Cylindromicrus hiranoi*として記載されたものであるが（Aoki, 2008）、*Carabothrus*という新属を設け、その中に入れた（Aoki, 2012c）。

A ヒゴホソカタムシ *Sosylus gracilis* (Sharp 1885) 本・九・対・隅・奄・先

当初、*Cylindromicrus gracilis* Sharpとして記録したものであるが、*Cylindromicrus*を*Sosylus*のシノニムとみなし、上記の学名となった。

C ヒュウガホソカタムシ *Sosylus crassus* Aoki & Narukawa, 2013 九・対・奄・先

基準産地：宮崎県児湯郡川南町遊学の森（堤内雄二採集）。日本産の近似種ヒゴホソカタムシに比べて明らかに大型で太い。宮崎県のほか、対馬（鈴木互・弘世貴久採集）、奄美大島（高橋敬一採集）、西表島（青木淳一採集）などからも見出されている（図18）。

A イチハシホソカタムシ *Antibothrus ichikawai* Narukawa, 2002 本・九・先

イノウエホソカタムシ *Antibothrus morimotoi* Sasaji, 1997 本・隅

B シリゲホソカタムシ *Antibothrus hirsutus* Aoki, 2009 奄

基準産地：徳之島丹発山麓（青木淳一採集）。体が小さいこと、翅鞘先端部の刺毛が目立つことなどが特徴。今のところ奄美諸島特産（図2）。

ミスジホソカタムシ *Leptoglyphus vittatus* Sharp, 1885 九・甌・隅

B タナカミスジホソカタムシ *Leptoglyphus tanakai* Aoki, 2011 本

基準産地：奈良県奈良市若草山（斎藤琢巳採集）。青木・平野（2008）および青木（2009）がタナカミスジホソカタムシ *Leptoglyphus orientalis* Grouvelle, 1906としたものは本種である。今のところ、本州中西部からのみ見出されている（図3）。

B ミナミミスジホソカタムシ *Leptoglyphus*

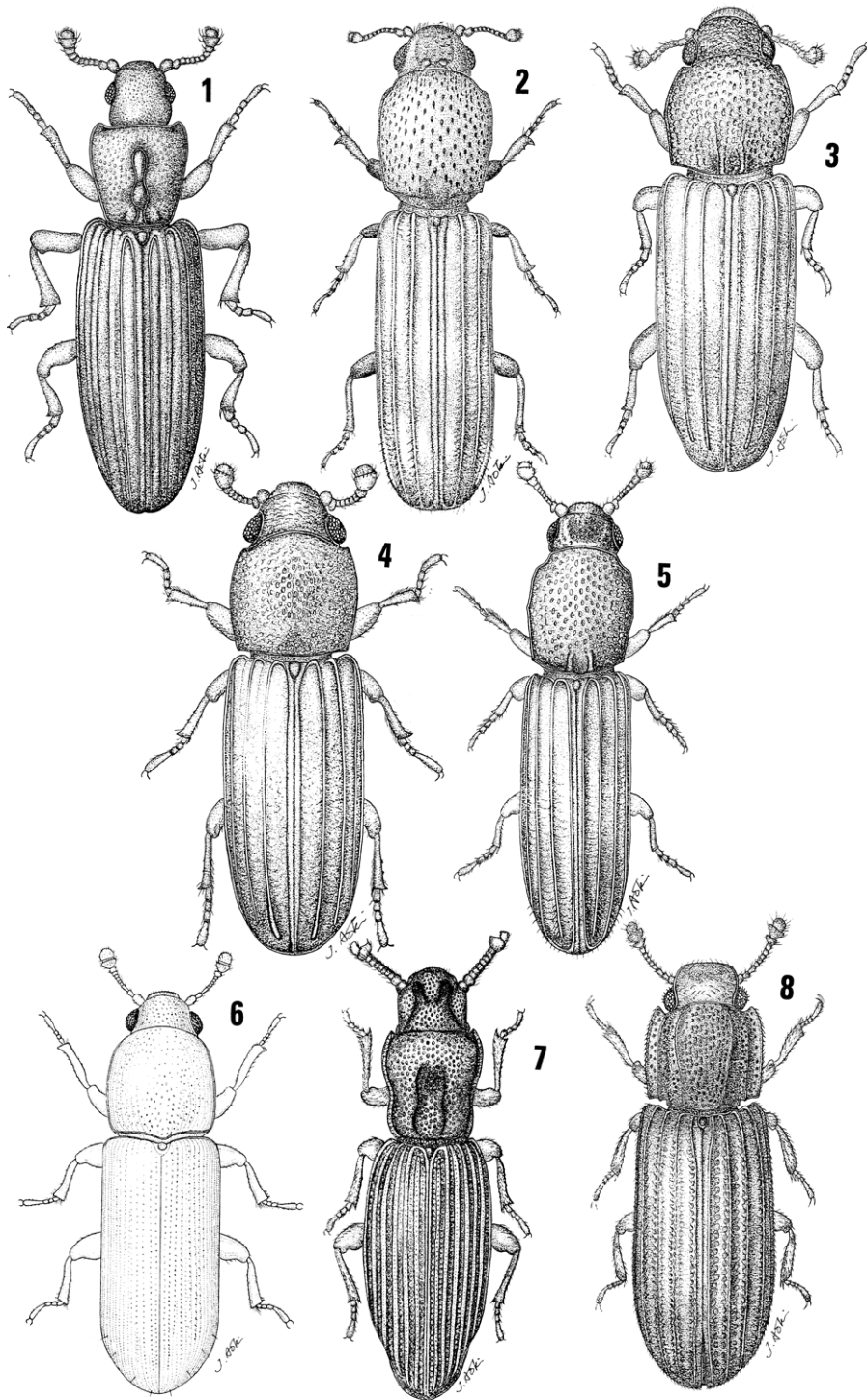


図 1-8. 最近追加された日本産ホソカタムシ類, I. 1, コウヤスジホソカタムシ *Ascetoderes koyasanus* Aoki, 2010. 2, シリゲホソカタムシ *Antitobthrus hirsutus* Aoki, 2009. 3, タナカミスジホソカタムシ *Leptoglyphus tanakai* Aoki, 2011. 4, ミナミミスジホソカタムシ *Leptoglyphus orientalis* Grouvelle, 1906. 5, ホソミスジホソカタムシ *Leptoglyphus kubotai* Aoki, 2011. 6, アトキツツホソカタムシ沖縄産亜種 *Teredolaemus guttatus yamabarensis* Aoki & Imasaka, 2010. 7, ツチホソカタムシ *Pycnomerus yoshidai* Aoki, 2011. 8, ムナグロナガセスジホソカタムシ *Bitoma sulcata* (LeConte, 1858). (1: Aoki, 2010; 2: Aoki, 2009a; 3, 4, 5: Aoki, 2011e; 6: Aoki & Imasaka, 2010; 7: Aoki, 2011c; 8: 青木, 2012a)

*orientalis* Grouvelle, 1906 九・甌・隅

基準産地：スマトラ島。ジャワ島にも産し、日本では九州以南の暖地に分布する。青木・平野（2008）がタナカミスジホソカタムシ *Leptoglyphus orientalis* Grouvelle, 1906としたものは、実は *orientalis* ではなく、前種であった。本物の *orientalis* は青木（2013, p. 90 および p. 104）および本報告に出ている（図4）。

B ホソミスジホソカタムシ *Leptoglyphus kubotai* Aoki, 2011 伊・隅

基準産地：鹿児島県屋久島トイモ岳（久保田義則採集）。日本産同属4種の中では体形が最も細長い。屋久島のほか、遠く離れた伊豆諸島の三宅島からも見出されている（図5）。

C クロミスジホソカタムシ *Leptoglyphus carbonaceus* Aoki & Ito, 2017 対

基準産地：長崎県対馬鹿見林道（伊藤建夫採集）。大型で体色が黒っぽく、前胸背が長さより幅広い。今のところ対馬特産（図17）。

**ツツホソカタムシ科 TEREDIDAE Seidlitz, 1888**  
(ツツホソカタムシ亜科 Teredinae が科に格上げされた)

アトキツツホソカタムシ *Teredolaemus guttatus* Sharp, 1885 本・伊・四・九・隅・奄

B アトキツツホソカタムシ 沖縄産亜種 *Teredolaemus guttatus yambarensis* Aoki & Imasaka, 2010 沖

基準産地：沖縄県国頭村与那覇岳（今坂正一採集）。基亜種の上翅の後方にある黄色い斑紋を欠く（図6）。

クロツヤツツホソカタムシ *Teredolaemus politus* (Lewis, 1879) 本・隠・四・九・対・隅・奄  
青木（2012b）で、本種の和名をクロツツホソカタムシとしたのは誤り。

**ゴミムシダマシ上科 TENEBRIONOIDEA**  
**Latreille, 1802**

**コブゴミムシダマシ科**  
**ZOPHERIDAE Solier, 1834**

**コブゴミムシダマシ亜科 Zopherinae Solier, 1834**

アトコブゴミムシダマシ *Phellopsis subarea* Lewis, 1887 本・隠・四・九

ヨコミゾコブゴミムシダマシ *Usechus chujoi* Kulzer, 1960 本・四・九

ツシマヨコミゾコブゴミムシダマシ *Usechus tsushimaensis* H. Kamiya, 1963 対

オオダイヨコミゾコブゴミムシダマシ *Usechus odaiensis* Sasaji, 1987 本

ミヤマヨコミゾコブゴミムシダマシ *Usechus sasajii* Saito, 1999 本

ツヤナガヒラタホソカタムシ *Pycnomerus vilis* Sharp, 1885 北・本・伊・小・対・九・隅・ト・奄・沖・先

C ムニンツヤナガヒラタホソカタムシ *Pycnomerus boninensis* Aoki, 2017 小

基準産地：小笠原諸島母島（桑原幸夫採集）。前胸背が四角く平坦、上翅が短い。母島から記録されているが、父島では見出されていない（図19）。

C コブツヤナガヒラタホソカタムシ *Pycnomerus strumiger* Aoki, 2017 本

基準産地：滋賀県大津市小関町（中川優採集）。前胸背の前角が側方に顕著に突出している。1頭だけが採集され、その後の記録がない（図20）。

アバタツヤナガヒラタホソカタムシ *Pycnomerus sculpturatus* Sharp, 1885 本・伊・九・対・奄・沖

青木（2009）、青木（2012b）、青木（2013）では本種の種小名を *sculptratus* と誤記している（正しくは *sculpturatus*）。

C アマミツヤナガヒラタホソカタムシ *Pycnomerus nishii* Aoki, 2017 奄

基準産地：奄美大島小湊（西真弘採集）。次種ツチホソカタムシによく似るが、眼の退化程度が小さく、後翅は消失していない。今のところ奄美大島特産である。本種の原記載論文中、採集者の西真弘氏のローマ字書きの氏名 Mr. Masahiro Nishi を Mr. Masaharu Nishi と誤記してしまい、たいへん申し訳なく、ここにお詫びとともに訂正させていただく（図21）。

B ツチホソカタムシ *Pycnomerus yoshidai* Aoki, 2011 四・隅

基準産地：徳島県那賀郡那賀町相生平野（吉田正隆採集）。ホソカタムシとしては例外的に土壌表層や落葉落枝層に生息し、眼は著しく小さく退化し、後翅は消失し、飛べない（図7）。

**ホソカタムシ亜科 Colydiinae Erichson, 1842**

ルイスホソカタムシ *Gempylodes ornamentalis* (Reitter, 1878) 本・伊・四・九・隅・先

A ムネナガホソカタムシ *Pseudendestes andrewesi* (Grouvelle, 1908) 先

ノコギリホソカタムシ *Endophloeus serratus* Sharp, 1885 本・伊・四・九・隅・奄・沖・先

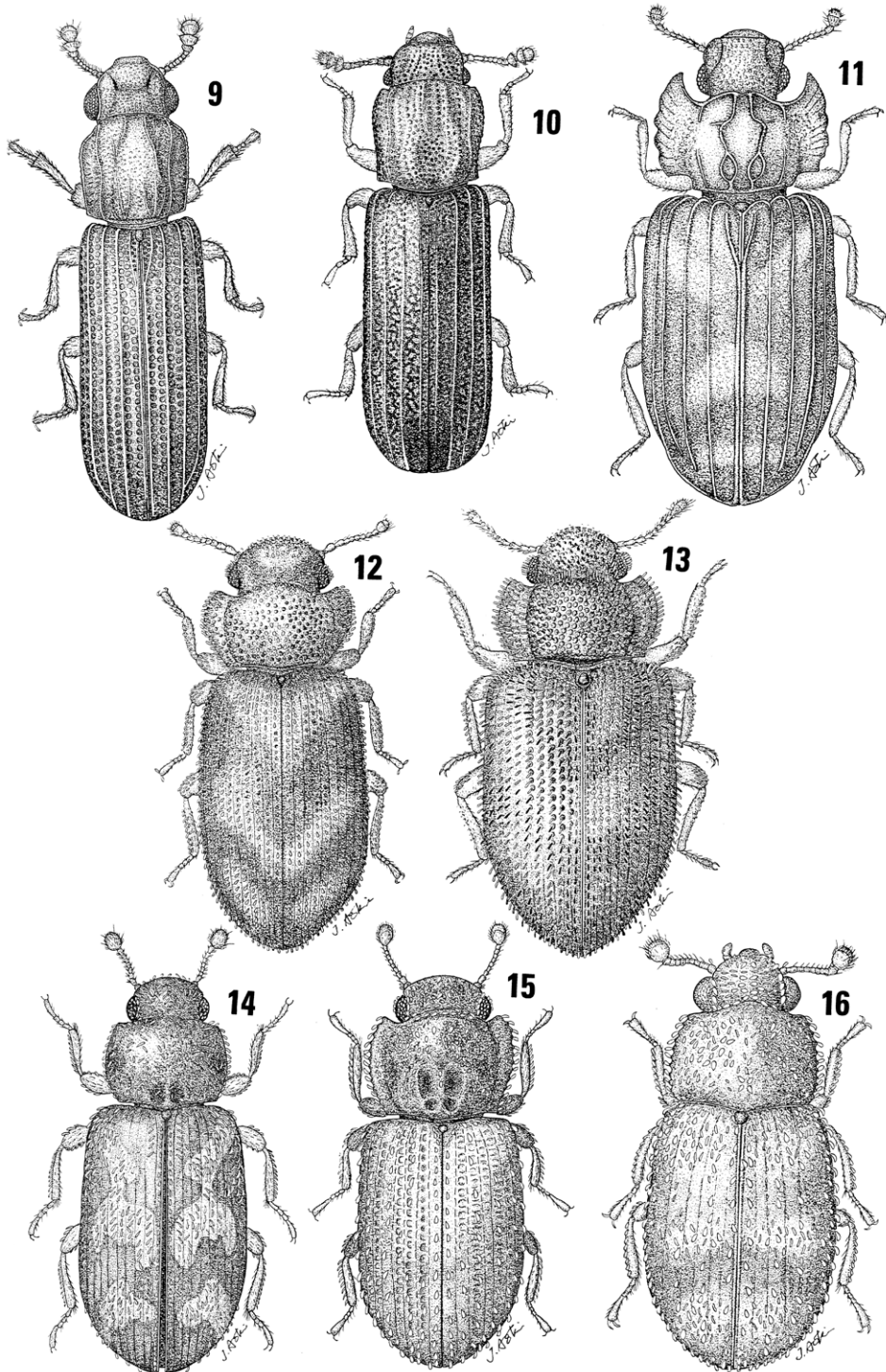


図9-16, 最近追加された日本産ホソカタムシ類, II. 9, ヒメユミセスジホソカタムシ *Lasconotus niponius* (Lewis, 1879). 10, オカダユミセスジホソカタムシ *Lasconotus okadai* Aoki, 2011. 11, ヘリビロホソカタムシ *Phormesa lunaris* Pascoe, 1863. 12, ホソヒサゴホソカタムシ *Glyphocryptus toyoshimai* Aoki & Okada, 2011. 13, オオヒサゴホソカタムシ *Glyphocryptus grandis* Aoki & Okada, 2011. 14, ウスモンヒメヒラタホソカタムシ *Synchita lecontei* Ivie *et al.*, 2016. 15, クビレヒメヒラタホソカタムシ *Synchita constricta* (Aoki, 2012). 16, チビヒメヒラタホソカタムシ *Synchita minima* (Sharp, 1885). (9, 10: Aoki, 2011c; 11: 青木, 2011d; 12・13: Aoki, 2011e; 14: 青木, 2011b; 15: Aoki, 2012e; 16: 青木, 2012d)

- ナガセスジホソカタムシ *Bitoma siccana* (Pascoe, 1863) 本・伊・小・四・九・甌・隅・大・沖・先
- B ムナグロナガセスジホソカタムシ *Bitoma sulcata* LeConte, 1858 本  
基準産地：北アメリカ。上翅の大部分は黄褐色だが、頭、胸、脚、触角の先端、上翅の周辺部は黒色。日本での発見地は静岡県磐田市新貝。粘着版ライトトラップに飛来したものが出口可能氏によって採集された。追加個体は得られていない (図8)。
- C クロオビナガセスジホソカタムシ *Bitoma crenata* (Fabricius, 1775) 本  
基準産地：イギリス。ヨーロッパに広く分布する種。日本では茨城県土浦市穴塚大池で行われた灯火採集で得られた昆虫類の中に発見された (金子道夫採集)。その後の採集記録はない。上翅の中ほどに太い黒帯がある (図22)。
- B ヒメユミセスジホソカタムシ *Lasconotus niponius* (Lewis, 1879) 北・本・四・九・隅  
青木 (2009b) ではヒメナガセスジホソカタムシという和名を用いたが、本種はナガセスジホソカタムシ属 *Bitoma* ではないので、上記のごとく改名した (青木, 2012b)。なお、青木 (2009) に掲げた図は本種のものではなく、次種のものであった。正しい図は青木 (2011b, 2012b, 2013) を参照 (図9)。
- B オカダユミセスジホソカタムシ *Lasconotus okadai* Aoki, 2011 本  
基準産地：東京都皇居 (青木淳一採集)。神奈川県、茨城県、京都府からも見出されている。東京の自然教育園では2004年ころからはじまったキアシドクガの大発生とともに園内のミズキが一斉に枯死し、その結果本種が大発生した (青木, 2012f) (図10)。
- A ユミセスジホソカタムシ *Lasconotus sculpturatus* (Sharp, 1885) 本・九・対・隅・奄  
ツヤケシヒメホソカタムシ *Microprius opacus* (Sharp, 1885) 北・本・四・九・対・甌・隅・奄
- B ヘリビロホソカタムシ *Phormesa lunaris* Pascoe, 1863 小  
基準産地：インド。パプア・ニューギニアにも広く分布する。日本では1976年にカミキリムシの研究家である草間慶一氏により小笠原諸島硫黄島で採集されている。前胸背の両側の平坦部が前方に鋭く突出している (図11)。
- A ヒラタサシゲホソカタムシ *Cerchanotus orientalis* (Ślipiński, 1985) 小  
サシゲホソカタムシ *Neotrichus hispidus* Sharp, 1885 本・伊・小・四・九・対・隅・先  
ノコムネホソカタムシ *Neotrichus serraticollis* Sasaji, 1986 先
- A ヘコムネホソカタムシ *Neotrichus cavatus* Aoki, 2009 小  
ダルマチビホソカタムシ *Pseudotarphius lewisii* Wollaston, 1873 本・四・九・甌・隅・ト・奄・沖・先  
ヒサゴホソカタムシ *Glyphocryptus brevicollis* Sharp, 1885 本・伊・四・九・五・対・隅・奄・沖・先
- B ホソヒサゴホソカタムシ *Glyphocryptus toyoshimai* Aoki & Okada, 2011 本・四・九  
基準産地：岐阜県郡上市高鷲町 (豊島健太郎採集)。日本産同属4種の中では、体形がもっとも細長い (図12)。
- B オオヒサゴホソカタムシ *Glyphocryptus grandis* Aoki & Okada, 2011 対  
基準産地：長崎県対馬厳原市内山 (蟹江昇採集)。日本産同属4種の中でもっとも大きく大型 (図13)。
- マメヒラタホソカタムシ *Acolophus debilis* Sharp, 1885 本・九・対  
オニヒラタホソカタムシ *Bolcocius granulatus* (Sharp, 1885) 本・四・九・対  
コヒラタホソカタムシ *Bolcocius shibatai* Sasaji, 1984 九・隅・ト・奄・先  
ヤエヤマコヒラタホソカタムシ *Bolcocius yaeyamensis* Sasaji, 1984 沖・先  
ヒラタホソカタムシ *Colobicus hirtus* (Rossi, 1790) 北・本・九  
ミナミヒラタホソカタムシ *Colobicus parilis* Pascoe, 1860 小・九・隅・奄・沖・先
- A トゲヒメヒラタホソカタムシ *Colobicones sakaii* Okada, 2005 奄・沖・先
- A トカラトゲヒメヒラタホソカタムシ *Colobicones tokarensis* Okada, 2005 ト・沖
- A ニセサシゲホソカタムシ *Endeitoma bonina* (Nakane, 1990) 小  
以下の日本産のヒメヒラタホソカタムシの仲間、青木 (2011a) 以降、ナガヒラタホソカタムシとクロヒメヒラタホソカタムシだけを *Synchita* 属に残し、他の種はすべて *Microsicus* 属に入れる処置をとってきたが、Ivie *et al.* (2016) はこれらをすべてまた *Synchita* 属に戻した。しかし、彼らの意見に反論するために

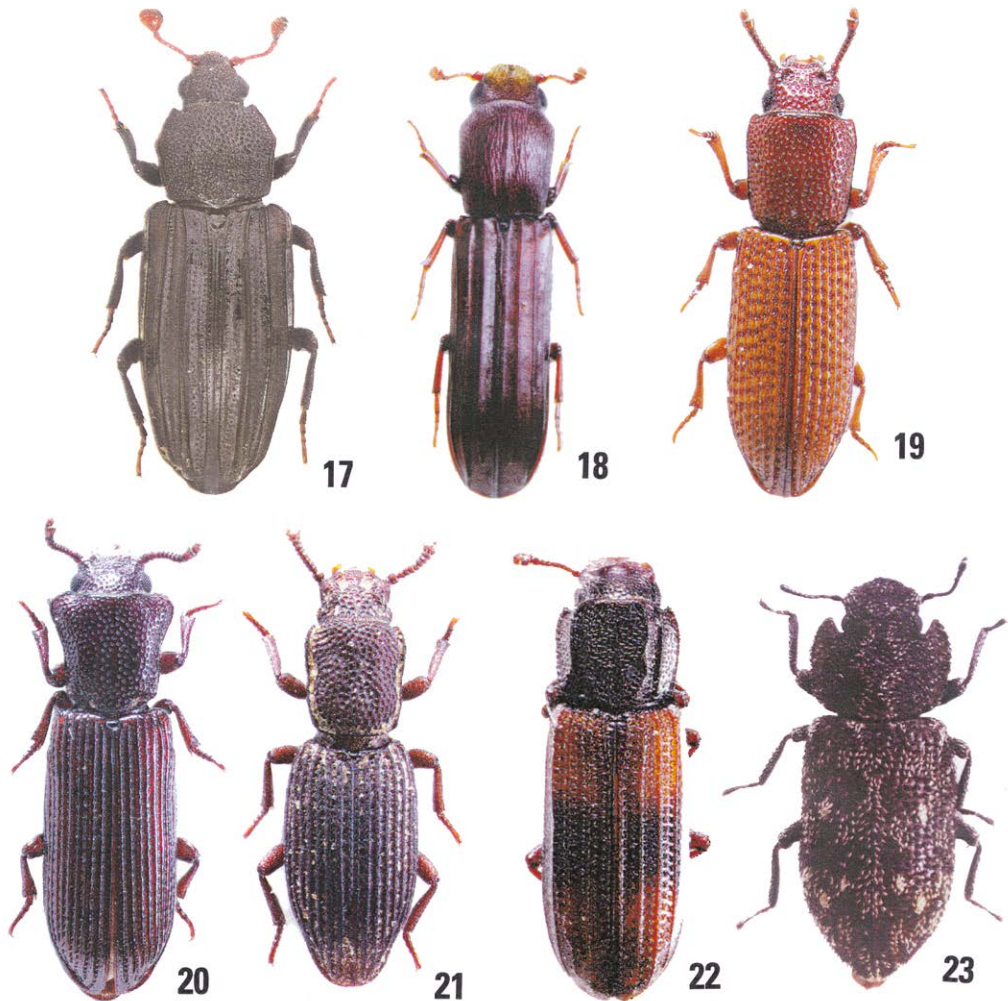


図 17-23. 最近追加された日本産ホソカタムシ類, III. 17, クロミスジホソカタムシ *Leptoglyphus carbonaceous* Aoki & Ito, 2017. 18, ヒュウガホソカタムシ *Sosylus crassus* Aoki & Narukawa, 2013. 19, ムニンツヤナガヒラタホソカタムシ *Pycnomerus boninensis* Aoki, 2017. 20, コブツヤナガヒラタホソカタムシ *Pycnomerus strumiger* Aoki, 2017. 21, アマミツヤナガヒラタホソカタムシ *Pycnomerus nishii* Aoki, 2017. 22, クロオビナガセスジホソカタムシ *Bitoma crenata* (Fabricius, 1775); 23, ミヤマホソマダラホソカタムシ *Namunaria montana* Aoki & Narukawa, 2016. (17, Aoki & Ito, 2017; 18: Aoki & Narukawa, 2013; 19, 20, 21: Aoki, 2017; 22: 金子・青木, 2014; 23: Aoki & Narukawa, 2017)

は、*Synchita*属の模式種の正体（とくに触角末端の構造）を知る必要があり、それがかなわない現在は、とりあえず彼らの処置に従い、日本産のヒメヒラタホソカタムシの仲間をすべて*Synchita*属に所属させておくことにする。

ナガヒラタホソカタムシ *Synchita angustissima* (Nakane, 1963) 本・九

他のホソカタムシが嫌うアカマツの枯れ枝に生息する。

クロヒメヒラタホソカタムシ *Synchita tokarensis*

(Nakane, 1967) 本・小・九・甌・隅・ト・奄・沖・先

メダカヒメヒラタホソカタムシ *Synchita oculata* (Sharp, 1885) 北・本・九

クロモンヒメヒラタホソカタムシ *Synchita nivea* (Sharp, 1885) 北・本・四・九

B ウスモンヒメヒラタホソカタムシ *Synchita lecontei* Ivie et al., 2016 本・四・九・屋・黒・奄・沖・石

基準産地：北アメリカ。わが国では1974年に

- 石垣島で最初に採集された。日本での分布の北限は福島県。前種によく似るが、前胸背がそれほど横長ではなく、触角先端節に横条がない(図14)。 *Synchita variegata* (LeConte, 1858)の置換名。
- ヨコモモンヒメヒラタホソカタムシ *Synchita bitomoides* (Sharp, 1885) 本・伊・九・隅・ト・奄・沖・先
- ベニモンヒメヒラタホソカタムシ *Synchita rufosignata* (Sasaji, 1971) 本・九
- B クビレヒメヒラタホソカタムシ *Synchita constricta* (Aoki, 2012) 先  
基準産地：沖縄県石垣島野底林道(野津裕採集)。前胸背が後方で幅狭くなることや体毛が幅広いことが特徴(図15)。
- B チビヒメヒラタホソカタムシ *Synchita minima* (Sharp, 1885) 本・九  
基準産地：熊本県水上村湯山(G. Lewis採集)。ずんぐりした体形で、体長1.3~1.5 mmと極めて小さい。Sharpによる1885年の原記載後ながらく見つからなかったが、130年後の2012年になって大分県豊後大野市清川村御嶽山(三宅武採集)および大分県日田市西有田坂本原(佐々木茂美採集)において再発見された。その後、大阪府池田市(齊藤琢巳採集)、京都府大山崎町(伊藤建夫採集)などでも得られている(図16)。
- ハヤシヒメヒラタホソカタムシ *Synchita hayashii* (Sasaji, 1971) 本・四・九・先
- A ケブカヒメヒラタホソカタムシ *Synchita hirsuta* (Aoki, 2008) 沖・奄  
本種は記載された時点で *Synchita hirsuta* (Pic, 1922) のホモニムであったが、のちにこの種が *Synchita crenicollis* Wollaston, 1967 のシノニムとなったため *Synchita hirsuta* が復活することになった(生川展行氏より私信)。
- ホソマダラホソカタムシ *Namunaria picta* (Sharp, 1885) 北・本・隠・伊・四・九・奄
- C ミヤマホソマダラホソカタムシ *Namunaria montana* Aoki & Narukawa, 2016 本・四  
基準産地：三重県多気郡大台町三津河落山(生川展行採集)。前胸背の前角が鋭く突出し、上翅はやや短い。前種が平地を主体に分布しているのに対して、本種は山地(標高1,500 m以上)に分布する(図23)。
- マダラホソカタムシ *Trachypholis variegata* (Sharp, 1885) 北・本・四・九・隅
- A オキナワマダラホソカタムシ *Trachypholis*

*okinawaensis* Nakane, 1991 ト・奄・沖・先

## 引用文献

- Aoki, J., 2008. On the taxonomy of *Cylindromicrus gracilis* Sharp in Japan (Coleoptera: Bothripteridae). *Entomological Review of Japan*, 63: 1-6.
- Aoki, J. 2009a. A new species of the genus *Antibothrus* (Coleoptera, Bothripteridae) from the Amami Islands of Japan. *Elytra*, Tokyo, 37: 291-295.
- 青木淳一, 2009b. ホソカタムシの誘惑 — 日本産ホソカタムシ全種の図説. 195 pp. 東海大学出版会, 神奈川.
- Aoki, J., 2010. A new species of the genus *Ascetoderes* (Coleoptera, Bothripteridae) from Mt. Koya-san, Central Japan. *Elytra*, (n.ser.), 38: 19-23.
- 青木淳一, 2011a. 日本産モンヒメヒラタホソカタムシ属(新称) *Microsicus* と日本未記録種について. *神奈川虫報*, (173): 1-9.
- Aoki, J., 2011b. Revisional status of a colydiid species known as "*Lasconotus nipponius* (Lewis)" (Coleoptera, Zopheridae). *Elytra*, (n.ser.), 1: 97-102.
- Aoki, J., 2011c. A new soil-inhabiting zopherid beetle (Coleoptera, Zopheridae) from southeastern Japan. *Edaphologia*, (89): 13-17.
- 青木淳一, 2011d. 草間慶一博士による日本未記録のホソカタムシ. *神奈川虫報*, (175):25-26.
- Aoki, J., 2011e. Four species of the genus *Leptoglyphus* from Japan (Coleoptera, Bothripteridae). *Elytra*, Tokyo, N.S., 1: 263-271.
- 青木淳一, 2012a. 静岡県から発見された日本未記録のホソカタムシ. さやばねニューシリーズ, (5): 31-32.
- 青木淳一, 2012b. 日本産ホソカタムシ類図説. 92 pp. 昆虫文献六本脚, 東京.
- Aoki, J., 2012c. Taxonomical treatment of the *Cylindromicrus*-species (Coleoptera, Bothripteridae). *Elytra*, (n.ser.), 2(1): 39-42.
- 青木淳一, 2012d. チビヒメヒラタホソカタムシ. 130年ぶりの再発見の顛末記. さやばねニューシリーズ, (8): 7-10.
- Aoki, J., 2012e. A new species of the genus *Microsicus* from Ishigaki Island, South Japan (Coleoptera, Zopheridae). *Elytra*, (n.ser.), 2: 217-219.
- 青木淳一, 2012f. ミズギの枯死とホソカタムシの大発生. 国立科学博物館叢書—14. 大都会に息づく照葉樹の森—自然教育園の生物多様性と環境. 2. 森の動物たち: 72-75.
- 青木淳一, 2013. ホソカタムシの誘惑 — 日本産ホソカタムシ全種の図説(第2版). 211 pp. 東海大学出版会, 神奈川.
- Aoki, J., 2017. Japanese species of the genus *Pycnomerus* (Coleoptera, Zopheridae) with description of three new species. *Elytra*, (n.ser.), 7: 175-182.
- 青木淳一・平野幸彦, 2008. ミスジホソカタムシ属の日本未記録種. ねじればね, (123): 1-3.
- Aoki, J. & S. Imasaka, 2010. Japanese species of the genus *Teredolaemus* (Coleoptera: Bothripteridae), with description of a new subspecies from Okinawa. *Biological Magazine of Okinawa*, 48: 11-16.
- Aoki, J. & T. Ito, 2017. A new species of the genus *Leptoglyphus* (Coleoptera, Bothripteridae) from Tsushima Island, Kyushu, West Japan. *Elytra*, Tokyo, (n.ser.), 7: 147-151.
- Aoki, J. & N. Narukawa, 2013. A new species of the genus *Sosylus* from Japan (Coleoptera, Bothripteridae). *Elytra*, (n.ser.), 3: 105-111.
- Aoki, J. & N. Narukawa, 2016. Two Japanese species of the genus *Namunaria* (Coleoptera, Zopheridae). *Elytra*, (n.ser.), 6: 101-109.
- Aoki, J. & K. Okada, 2010. Species of the genus *Glyphocryptus* (Coleoptera, Zopheridae) from Japan and Taiwan. *Special Publication of Japanese Society of Scarabaeoidology*. Tokyo, (1): 243-251.



伊藤建夫, 2017. コミセスジホソカタムシの奈良県から記録. さやばねニューシリーズ, (27): 35.

Ivie, M. A., N. P. Lord, I. A. Foley & S. A. Ślipiński, 2016. Colydiine genera (Coleoptera: Zopheridae: Colydiinae) of the new world: A key and nomenclatural acts 30 years in the making. *The Coleopterists Bulletin*, 70(4): 755-788.

亀澤 洋, 2012a. 東京都でムネクボスジホソカタムシを採集. さやばねニューシリーズ, (5): 52.

亀澤 洋, 2012b. 御蔵島でアバタツヤナガヒラタホソカタムシを採集. さやばねニューシリーズ, (8): 6.

金子道夫・青木淳一, 2014. 茨城県で発見されたヨーロッパ産のホソカタムシ. *月刊むし*, (520): 33-34.

黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之, 1985. 原色日本甲虫図鑑. 保育社, 大阪.

中根猛彦・大林一夫・野村 鎮・黒澤良彦, 1963. 原色昆虫大図鑑 (第2巻). 北隆館, 東京.

生川展行, 2011. ウスモンヒメヒラタホソカタムシの本州からの記録. さやばねニューシリーズ, (4): 31.

生川展行・細川浩司, 2014. 興味深いヒラタムシ上科およびゴミシダマシ上科の記録. さやばねニューシリーズ, (9): 22-25.

西田光康, 2017. ナガヒラタホソカタムシ九州の記録. さやばねニューシリーズ, (25): 24.

Robertson, J.A., A. Ślipiński, M. Moulton, F.W. Shockley, A.I. Giorgi, N.P. Lord, D.D. McKenna, W. Tomaszewska, J. Forrester, K.B. Miller, M.F. Whiting and J.V. McHugh, 2015. Phylogeny and classification of Cucujoidea and the recognition of a new superfamily Coccinelloidea (Coleoptera: Cucujiformia). *Systematic Entomology*, 40: 745-778.

(2017年9月15日受領, 2017年11月21日受理)

### 【短報】ヤノコモンタムシを富山県で採集

ヤノコモンタムシ *Poecilnota variolosa yanoi* (Y. Kurosawa) は, クロコモンタムシ *Poecilnota variolosa* (Paykull) の本州中西部亜種 (黒澤ほか, 1985; 京都府環境部自然環境保全課, 2015; 大桃・福富, 2013) とされている. 筆者は富山県富山市において本種を採集しているので報告する. なお, 北海道および本州北部には別亜種 (*P. v. chinensis* Théry, 1926) が産するが, 本報告の富山市産個体は色彩などの特徴から本州中西部亜種ヤノコモンタムシに該当すると考えられる. 本州中部, 北陸地方からの記録は, 分布上興味深い例である.

1♂, 富山県富山市三熊, 4. VI. 2017, (図1); 7♂1♀, 同左, 9. VI. 2017; 1♂, 富山県富山市山本, 14. VI. 2017, いずれも筆者採集・保管.

富山市内に位置する丘陵地の標高100m付近のヤマナラシの葉をスウィーピングしたところ1♂が得られ, 周囲の立ち枯れや衰弱木には本種のものと思われる脱出口を多数確認した. 5日後の日中には, 複数個が幹を這う様子や交尾が観察できた (図2, 3). また, 付近を調査した結果, 最



図1. 富山県産ヤノコモンタムシ. (スケールバーは10.0 mm)



図2-3. 野外でのヤノコモンタムシ. 2, 幹を這う個体; 3, 交尾中のペア.

初に発見した地点より直線距離で約2km離れた富山市山本地内のヤマナラシにおいても生息が確認できた.

周辺地域では, 本種の寄生木であるヤマナラシの自生が稀ではないため, 今後も新産地の発見が期待される.

### 引用文献

黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之 (編), 1985. 原色日本甲虫図鑑 (III), 500 pp. 保育社, 大阪.

京都府環境部自然環境保全課, 2015. 京都府レッドデータブック 2015 (2017年7月1日閲覧 <http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/ins0057.html>)

大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タムシ大図鑑. 118pp. むし社, 東京.

(澤田研太 930-0116 富山市追分茶屋 90-1)